

第42回 独立行政法人国立印刷局契約監視委員会（審議概要）

開催日及び場所	令和7年12月17日（水） 国立印刷局本局804会議室
出席委員	<p>委員長 栗田 誠（千葉大学名誉教授）</p> <p>委員 黒川 行治（一般財団法人産業経理協会会長、慶應義塾大学名誉教授）</p> <p>委員 村瀬 均（岡崎村瀬法律事務所弁護士）</p> <p>委員 光本 滋（独立行政法人国立印刷局監事）</p> <p>委員 新井 清（独立行政法人国立印刷局監事）</p>
審議対象	<p>令和7年度上半期契約の点検</p> <p>令和7年度上半期に契約締結した案件のうち、新規の競争性のない随意契約の点検（3件／うち個別審議案件3件）及び2か年度連続して応札者又は応募者が1者しかない契約の点検（29件／うち個別審議案件2件）（全32件／うち個別審議案件5件）</p> <p>別紙1のとおり</p>
委員からの意見・質問、それに対する回答等	別紙2のとおり
委員会による意見の具申の内容	いずれの案件も了承され、意見の具申はなかった。

個別に審議した契約案件（5件）

【新規の競争性のない随意契約案件】

(1) 「品質管理システム機能強化開発請負作業」

品質管理システムにおいて検査仕上機からの出力データを取り込めるよう機能強化開発を行う作業

(2) 「2号グラビア原色インキ - B」

諸証券類の製造に使用する水性グラビアインキの購入

(3) 「特殊印刷用紙糊引加工作業」

諸証券類の製造に使用する用紙の糊引加工等を行う作業

【2か年度連続して応札者又は応募者が1者しかない契約案件】

(4) 「原価管理システム用機器等保守」

原価情報抽出システムの機器及びソフトウェアの保守作業

(5) 「タック加工紙外1件」

諸証券類の製造に使用する原材料の購入

意見・質問	回 答
令和7年度上半期契約の点検	
<p>(1)「品質管理システム機能強化開発請負作業」</p> <p>○ 品質管理システムはどのような時に活用するのか。</p>	<p>○ 製造品質の変動傾向を把握し、製造現場にフィードバックすることに加え、品質に異常があった場合に製造過程の履歴及び品質情報を検索し、対象製品の範囲を確認することにも活用する。</p>
<p>(2)「2号グラビア原色インキ - B」</p> <p>○ 製造会社の現地確認は行っているのか。</p> <p>○ 技術審査の合格者が1者である理由は何か。</p>	<p>○ 必要に応じて現地訪問を行っている。</p> <p>○ グラビアインキのメーカーは複数あり、声かけも行っているが、材料を指定すると対応できるところが限られている。</p>
<p>(3)「特殊印刷用紙糊引加工作業」</p> <p>○ 技術審査の合格者が1者である理由は何か。</p> <p>○ 当該作業を外注化した理由は何か。</p>	<p>○ 厳格な数量管理を求めており、製造工程のセキュリティ管理に対応できる業者が限られている。</p> <p>○ 製品の受注数量が大幅に減少し、製造体制を維持すると採算が合わなくなるため外注化した。</p>
<p>(4)「原価管理システム用機器等保守」</p> <p>○ 業者の見積り価格の内訳は確認しているのか。</p>	<p>○ 作業項目の内訳が分かるものを徴取し、過去の実績等と比較、確認している。</p>
<p>(5)「タック加工紙外1件」</p> <p>○ 特殊な技術が必要な仕様なのか。</p>	<p>○ 当該製品を使用する機器に適合するという条件が困難な部分である。</p>